

# (1) 半導体学部(仮称)設置計画

## ① 文部科学省への設置認可申請について ※半導体学部(仮称)に関する設置計画は予定であり、今後変更する場合がある。

### 学部学科名

半導体学部半導体学科(仮称) ※既存の3学部に加えて新設

### 開設時期

令和9年(2027年)4月1日

### 入学定員

60名/学年

	入学定員	収容定員
総合管理学部	280名→220名	1,120名→880名
半導体学部(仮称)	60名	240名

※大学全体の定員に変更なし。

### 教員体制

16名

### 養成する人材像

半導体に関する専門知識と技術ならびに半導体に関わる様々な分野についての横断的な知識を修得し、実践的な教育と研究を通じて、地域社会および国際社会の発展に貢献する人材

### 授与する学位の名称

学士(半導体学)

### 学部の特色

- (1)半導体の力で社会課題の解決に貢献できる人材の養成
- (2)産学連携による実学教育
- (3)「地域に生き、世界に伸びる」の実践

### 施設整備

- ・新施設(学部棟)を月出キャンパス内に整備
- ・半導体学部(仮称)開設2年目まで(令和9~10年度)は既存施設を活用し、開設3年目(令和11年度)からは全学年新施設(学部棟)でスタート

#### 現在の学部構成

文学部 90名

日本語日本文学科 45名  
英語英米文学科※ 45名  
※令和8年(2026年)4月から  
グローバル・スタディーズ学科

環境共生学部 110名

環境共生学科 110名  
- 環境資源学専攻  
- 居住環境学専攻  
- 食健康環境学専攻

総合管理学部 280名

総合管理学科 280名  
- 公共専攻  
- ビジネス専攻  
- 情報専攻

#### 半導体学部(仮称)設置後の学部構成

文学部 90名

日本語日本文学科 45名  
グローバル・  
スタディーズ学科 45名

環境共生学部 110名

環境共生学科 110名  
- 環境資源学専攻  
- 居住環境学専攻  
- 食健康環境学専攻

総合管理学部 220名

総合管理学科 220名  
- 公共専攻  
- ビジネス専攻  
- 情報専攻

半導体学部(仮称) 60名

半導体学科(仮称) 60名

# (1) 半導体学部 (仮称) 設置計画

## ① 文部科学省への設置認可申請について ※半導体学部 (仮称) に関する設置計画は予定であり、今後変更する場合がある。

### 養成する人材

#### ① 人材の養成に関する目的

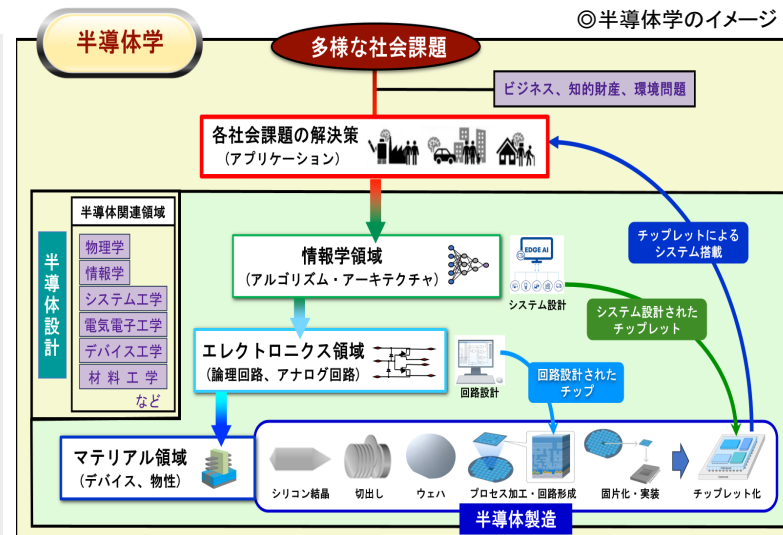
半導体に関する知識と技術ならびに半導体に関わる様々な分野についての横断的な知識を修得し、実践的な教育と研究を通じて、地域社会および国際社会の発展に貢献する人材の養成を目的とする。

#### ② 教育・研究上の目的 (教育・研究の対象)

急速に進展する情報社会と産業構造の変化に対応するため、半導体の基礎から応用に至る分野に加え、半導体に関わるビジネス、環境、法制度などを一体として扱う「半導体学」を教育・研究の対象とする。



具体的には、AI、情報分野から回路、エレクトロニクス、物性、製造、ビジネス、環境問題、法制度まで、新しい時代の半導体を切り拓く幅広い知識と技術を身につけ、自ら半導体チップを設計・開発できる技術を修得することによって、あらゆる産業や社会経済を根幹で支えている半導体の力で社会課題の解決に貢献できる人材の養成を目指す。



### カリキュラムの特長(3つの履修モデル)

(1) AI・応用情報	AIに使われる半導体とその活用に関する知識・技術を備えた人材を養成
(2) マイクロエレクトロニクス	半導体のエレクトロニクス分野に関する知識・技術を備えた人材を養成
(3) スマートマテリアル	半導体の材料物性、デバイス製造工程、製造装置に関する知識・技術を備えた人材を養成

※学生は各自の興味や将来のキャリア指向に合わせて履修モデルを選択し、専門性を深めていく。

### 学部開設までの準備体制

- 令和7年度に設置した学内の新学部設置準備委員会で準備を加速化

委員長: 堤 裕昭 学長、委員: 各学部長、関係課長 等

- 新学部設置準備室を設置

- ・令和8年4月1日設置
- ・関係課等と連携して学部開設までの総合調整を行う

### 今後のスケジュール(予定)

- 文部科学省から、審査意見伝達【R8.5月末頃】
- 文部科学省からの意見に対する補正申請書提出【R8.6月末】
- 半導体学部(仮称)設置認可【最速でR8.8月末】
- 入学者選抜の実施【特別選抜: R8.12月 一般選抜: R9.2月~3月】
- 半導体学部(仮称)開設【R9.4月】
- 全学年が半導体学部(仮称)の新施設(学部棟)でスタート【R11.4月】

# (1) 半導体学部 (仮称) 設置計画

## ② 大学・高専機能強化支援事業 (文科省) の選定結果について

### 大学・高専機能強化支援事業の概要

#### 【現状・課題】

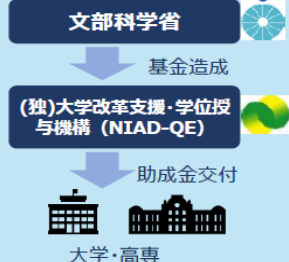
- ・ 少子高齢化に加え、2040年には、生産年齢人口の減少による働き手不足により、我が国の社会・産業構造の大きな変化が見込まれる一方で、今後求められる理系人材を輩出する理系学部の定員が未だ少ない状況。
- ・ また、日本成長戦略本部において、「未来成長分野に挑戦する人材育成のための大学改革、高専等の職業教育充実」について検討課題とされており、半導体等の重点分野に関する人材育成に迅速に取り組む必要。

#### 【概要】

デジタル、グリーン等の成長分野を牽引する高度専門人材の育成に向けて、成長分野への学部転換等の改革を行うために大学・高専が予見可能性を持って取り組めるよう、国が基金 (成長分野転換基金) を創設し、安定的で機動的かつ継続的に支援を実施。

⇒学部再編等の検討・準備段階から、新たに設置した学部等の完成年度までの取組を対象に支援 (助成期間を以下のフェーズに分類した上で実施)。

#### 【事業スキーム】



フェーズ1	設置認可申請までにおける学部再編等に向けた検討体制の構築を実施する期間(設置認可申請後でも可)
フェーズ2	設置認可申請から学部等の開設までにおける、施設設備整備を実施する期間(学部開設後でも可)
フェーズ3	学部等の開設から完成年度までにおける、自走化戦略の深化に向けた取組を実施する期間

### 令和8年度大学・高専機能強化支援事業の選定結果

熊本県立大学から、半導体学部 (仮称) 新設による半導体人材育成計画を提出

選定 (R8.2.26付)

※令和8年度から令和12年度 (完成年度) まで、総額10億円程度の助成が見込まれる。

### 文科省報道発表資料(抜粋)

#### 報道発表



文部科学省  
MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

令和8年3月6日

#### 成長分野転換基金 (成長分野転換枠・先行審査) の公募選定結果をお知らせします

成長分野転換基金の一部のメニューにおいて公募を行い、1件選定しましたのでお知らせいたします。

#### 1. 事業の概要

「成長分野転換基金」は、デジタル・グリーン等の成長分野への学部転換等を支援する目的で、令和4年度第2次補正予算で造成したものです。令和7年度補正予算で200億円を積み増し、既存分と合わせて1,000億円規模で再始動を図り、将来の社会・産業構造変化を見据え、大規模大学を含めて、成長分野への学部等転換・重点分野の人材育成を推進していきます。具体的には、以下の支援メニューがあります。

- ・ 支援1: 学部再編等による特定成長分野への転換等 (公私立大学が対象)
  - ① 成長分野転換枠 (先行審査、通常審査)
  - ② 大規模文理横断転換枠
- ・ 支援2: 高度情報専門人材の確保に向けた機能強化 (国公立大学・高専が対象)

今回は、支援1①成長分野転換枠 (先行審査) について、令和9年度に学部再編等を実施する計画であって、令和8年3月又は6月に認可申請を行うものを令和8年1月14日~1月30日で公募を受け付けました。本事業の実施機関である独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 (以下「機構」) に設置された外部有識者からなる大学・高専機能強化支援事業選定委員会における審査を踏まえ、機構において選定を行いました。

#### 2. 選定結果

- ・ 1件: 熊本県立大学 半導体学部半導体学科 (仮称) (公立大学)

# (1) 半導体学部 (仮称) 設置計画

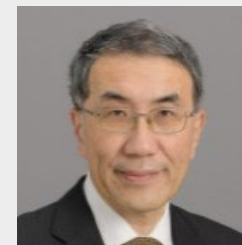
## ③ 就任予定の教員 (学部長) について

### あまの ひではる 天野 英晴 自己紹介

【1958年9月生(67歳)】

慶應義塾大学名誉教授、東京大学上席研究員  
コンピュータアーキテクチャの第一人者  
博士を40人輩出、教科書を10冊執筆、学生の人気絶大  
情報処理学会フェロー、電子情報通信学会フェロー

※フェローとは、技術革新や社会進歩に著しく貢献した研究者に授与される最高級の称号で、その数は会員の0.1%以下



- 2024年3月 慶應義塾大学理工学部を定年退職、名誉教授
- 2024年4月～東京大学システムデザイン研究センター(d.lab)に所属、上席研究員
- 研究
  - コンピュータアーキテクチャ、チップ設計の研究に従事、現在東大Agile-X:半導体の民主化プロジェクトに従事、半導体学部(仮称)でも利用できる半導体の簡易設計法、製造法、教育法に関する研究を行い、精力的に普及活動を行っている。
- 兼業
  - Softbank顧問
  - 理研チームリーダー
  - JST Aspire半導体部門PO
  - JST CRONOS AD
  - NEDO JHPC-Quantum AD
  - 文科省情報委員会 委員
- 著作、訳本多数 →
- 研究プロジェクト
  - 科研費S代表、CRESTプロジェクトリーダー、文科省調査研究ポスト富岳FSチームリーダー、COI-NEXT慶應代表など
- 学会活動
  - 電子情報通信学会、情報処理学会フェロー、ARC研究会主査、CPSY研究会委員長を務める。RECONF研究会を立ち上げる。ICFPT、NoCS、CANDAR、MCSoc、HEART、CoolChipsなど数多くの国際学会のChairを務める。大学評価、学位授与機構の情報部門の委員長を務めた。
- 学内活動
  - 慶應義塾大学理工学部情報工学科の立ち上げメンバー、学習指導、幹事、学科主任、専修主任、大学院専攻長、大学院入試委員長などの職を務めた。



# (1) 半導体学部 (仮称) 設置計画

## ③ 就任予定の教員 (学科長) について

にわ まさあき  
**丹羽 正昭** 自己紹介

【1955年9月生(70歳)】

東北大学教授を経て東京大学上席研究員  
半導体デバイス・製造プロセスの第一人者  
32nmCMOSの世界初量産に成功、imecで最も敬愛される日本人  
米国電気電子学会(IEEE)フェロー、応用物理学会フェロー

※フェローとは、技術革新や社会進歩に著しく貢献した研究者に授与される最高級の称号で、その数は会員の0.1%以下

- 1980年に**松下電器産業 (現パナソニック)** に入社し、半導体の研究開発に従事。特に、**消費電力を大きく下げる先端トランジスタ技術の開発を推進**。
- 2000年代にはベルギーの研究機関imecと共同研究を行い、**次世代半導体技術の開発をリード**。
- 2010年には、**当時世界最先端となる低消費電力の半導体技術を実用化し、Blu-rayレコーダー向け製品の量産に貢献**。
- その後、**筑波大学や東北大学で教授**として教育・研究に携わり、**次世代半導体材料や宇宙機器向けメモリの信頼性評価などを推進**。
- 2020年以降は**東京大学**や研究機関で**シニアフェロー (上席研究員)**として活動し、**最先端の半導体技術開発プロジェクトをリード**。
- 国際会議の委員長や政府プロジェクトの責任者などを歴任し、半導体分野の発展に広く貢献。IEEEフェローなどの称号を持つ。



【諸活動】 IEDM, IRPS, VLSI Symp.など主要国際会議の委員長、京都賞推薦委員、半導体ロードマップ委員会日本代表、フランダース州政府外部評価委員、KUL博士学位審査委員、IEEEフェロー審査副委員長、IEEE EDS Japan Chapter委員長、NEDO調査委員会委員長などを歴任

【学位など】 大阪大学博士 (応用物理学) IEEEフェロー、応用物理学会フェロー